台湾高校生日本留学事業
第８期留学中間報告

当協会の台湾高校生日本留学事業では、台湾の高校生が日本の高校に約11ヶ月間留学し、日本の高校生と同じ環境で生活を送りながら、日本の社会・文化・歴史等を学ぶ機会を提供しています。留学した台湾人高校生が将来知日派人材となり、日台間の架け橋として日台関係の更なる発展に寄与すること、及び受入校の日本人高校生等の台湾に対する理解を増進することを目的としています。2024度派遣の第８期生は、2024年８月より留学を開始し、半年が経ちました。今回は、日本の高校生活の中で疑問に感じたこととそれに対する自分の考えについて、留学生３名の報告を紹介いたします。

高度参加の部活動

成瀬高等学校　陳翆彤

台湾の教育制度では、部活動に多くの時間を費やす人は、学業に集中していないと見られることがよくあります。そのため、日本が部活動をとても重視していると聞いたとき、とても驚きました。日本に来て部活動に参加してから、自分の興味を応援される気持ちを感じ、青春を楽しみ、夢に向かって進む勇気を持つことができました。でも、なぜ台湾と日本では部活動に対する価値観がこんなに違うのでしょうか？

私は主に以下の４つの理由があると考えます。最初の理由は、教育文化の違いだと思います。日本の教育は、生徒の全体的な成長を重視し、興味やスキル、チームワークを育てることに重点を置いています。部活動は生徒生活の重要な部分であり、学校教育の延長線上にあります。一方、台湾の教育は学業成績に重点を置いており、多くの生徒が放課後の時間を塾や勉強に費やします。その目的は、入試で良い成績を取ることです。

次に、部活動の学校内での位置づけの違いがあります。台湾では、部活動は必修科目の１つで、毎週１時間の部活動授業があります。このような制度の中で、生徒たちは部活動を教育制度の義務として考え、単位を取るためだけに参加していることが多いです。それに比べて、日本の多くの生徒は積極的に部活動に取り組んでいます。私が参加している剣道部では、毎週木曜日と日曜日以外は練習があります。練習時間が長くても、多くの生徒は学業を疎かにすることはありません。中には、部活動の空き時間に部活顧問の数学教師に課題の質問をする人もいます。また、体調が悪い時でも練習を休まず、他のメンバーを手伝いながら空き時間で勉強をする生徒もいます。

三つ目は、進学制度の違いです。日本では、試験の成績は重要ですが、いくつかの学校や大学は部活動の参加状況を入試の参考にします。このため、生徒たちは部活動にもっと積極的に取り組みます。台湾でも「学習履歴ファイル」で部活動の経験を記録できますが、進学は主に試験の成績に基づいているため、生徒は学業に集中する傾向があり、部活動への参加が少なくなります。

最後に、親と社会の期待の違いがあります。日本では、親や社会は生徒の部活動参加を応援し、学ぶ姿勢や人間関係を育てるために重要だと考えています。一方、台湾では、親や社会は主に学業成績に期待を集中させ、部活動が勉強時間に影響を与えると考える人が多いです。そのため、部活

動への参加をあまり支持しない場合もあります。実際に、親が部活動の種類を制限し、追加練習のある部活動への参加を許さない例もありました。

放課後活動の違いは、両国の異なる教育理念と社会の期待を反映しています。日本は課外活動を重視し、生徒の多方面な成長を助けています。一方、台湾は学業成績に集中しています。この違いは、私に異なる教育方法についての理解を深めさせ、どのようにそのバランスを取るべきかを考えさせました。

剣道部で一級審査を合格しました

日本の高校文化に見る秩序と自由

伊丹高等学校　李芸亞

留学してから半年が経ち、以前とは異なり、日本を新たな視点で捉えられた気がします。

まず、日本では高校の段階から、社会人としての振る舞いが徐々に身についていくように感じました。例えば、先輩・後輩といった上下関係が色濃く存在することです。私が所属している剣道部では、２年生として、後輩は必ず敬語で挨拶してくれます。たった１歳差でこんなにも敬意を持たれるのは、正直、今でもなかなか慣れません。とはいえ、上下関係があることで秩序が保たれ、練習も円滑に進められると思います。みんなが自分の役割を意識でき、先輩もチームを引っ張る責任を果たそうとする思いが強くなります。しかしその関係性が厳しすぎると、後輩が意見を言いづらくなるため、信頼関係を構築することの大切さも感じました。

その他にも、職員室に入る際のマナーや制服の正しい着こなし方など、そういったルールが日常の一部になっています。少し窮屈に感じるかもしれませんが、その枠組みの中で生活してみたら、日本はなぜ統一感のある整った環境であるのか、非常に納得した気がします。台湾では個人の考えで行動することが多く、自由度が高い分、周りに迷惑をかけてしまう場合もあるので、そこは日本人の尊敬できるところだと思います。

枠があるような社会の雰囲気といえば、日本の教育スタイルもそれと似ていると感じます。例えば、「赤シート」を使って言葉を隠しながら覚える勉強法が一般的に用いられるように、日本では暗記を重視する傾向が強く、テストも習った内容が穴埋め問題として出題されることが多いです。台湾は多面的に知識を深める学習スタイルであると感じるのに対し、たくさんの知識を頭に詰め込むだけで、どこか物足りない気持ちもあります。

しかし、しっかり勉強すれば結果が出るので、努力が評価される仕組みになっているのが良いと思いました。

その一方で、日本の高校には自由な側面もあります。例えば、私の学校では、体育に３つの選択科目があり、文系の２年生は日本史か世界史、化学や地学を選べます。これは大学の入試制度にも関係ありますが、自分の得意分野や興味に合わせた学習が可能になります。また、生徒の人数が分散されることで、先生との距離が縮まり、学習の質が向上すると考えます。

こうして、現地の文化に溶け込みながらも留学生だからこその目線で考えられるのは、留学の醍醐味だと思います。

体育祭の日で撮った剣道部の集合写真

日本留学で感じた文化の違いと人間関係

早稲田大学本庄高等学院　呉英齊

一、はじめに

私は日本の高校に留学して、今月で５か月目になりました。この５か月間は豊かに過ごしていましたが、日常に不思議に感じたことも沢山あります。今回のレポートではその中の３つについて話したいと思います。

二、シャイな性格

私は日本の高校に入学してから、いろいろな人と交流したくて、皆とのお喋りを楽しみにしていましたが、日本人は台湾人よりシャイな性格の人が多い為、自分から話かけないと、会話が殆ど始まりません。私自身も内向的な性格であるため、少し辛い時期もありましたが、普段の交流と日常の出来事から段々とある事に気づきました。それは、周りの皆は私にとても興味と関心を持っているということです。私のために歓迎パーティーを開いてくれたり、授業中に困っていた私を助けてくれたり、実は常にみんなが私を観察していることに気づき、感動しました。

三、男女の距離感

台湾にいた時の私は、男女問わずに仲良くなっていました。台湾の男女関係は日本と比べるととても親しく、性別の距離感があまり感じられない環境です。日本のクラスに入った時は男女の距離感に驚きました。異性同士が喋ることはほとんどなく、ペアワークする時しか交流しない印象を強く感じました。元々男女問わずに仲良くなりたいと思っていた私は、男子との交流を諦めようとも思いましたが、台湾人としての特徴を保ちたいため、頑張って男の子たちにも話かけていました。

そのおかげで、誰とでも話せる立場になり、台湾人の社交的な特徴もクラス内で十分伝わったと思います。

四、プライベートへの尊重

友達と会話する時の私は、自分の思い出と経験をよく話す人です。台湾の友達と話す場合はそれ以上にもっと深い内容を聞かれますが、日本の友人と話す場合は話す内容のみが討論されます。とても仲良くなった日本人の友達にも、普段はプライベートについてあまり聞かれないことに感心しました。台湾人の親切さはよく他の国の人たちに言われますが、他者への関心を持ちすぎて相手の知られたくないプライベートに触れることもあるため、日本人のこの特徴はとても好ましい所だと思います。

五、おわりに

台湾と日本の関係や文化において近い所はたくさんあると思いますが、人間性や価値観、性格などには意外と違いが出てきます。日本人を冷たいと思う台湾人もいる一方、台湾人を暑苦しいと思う日本人も多少いると思います。それでも、互いに関係性を築くからこそ、有意義な国際交流になると思います。これから残り半年間の留学生活も、台湾と日本の架け橋になるため、精一杯頑張りたいと思います。

文化祭で撮ったクラスの集合写真